

楽読 (ラクヨミ) Vol. 1,357

Raku Yomi

# 高成長と存在感の高まりで要注目の新興アジア ~Emerging Asia on Our Mind~

nikko am fund academy

楽読 (ラクヨミ)

IMF(国際通貨基金)が今年4月に発表した最新予想によると、世界の経済成長率は、2016年の前年比+3.2%を底に加速し、2020年にかけて3%台後半で推移する見通しです。こうした世界経済の成長加速の主な牽引役は新興国で、中でも6%台半ばという高成長が見込まれている新興アジア地域は、2019年には経済規模で米国を上回る見通しとなっていることもあり、要注目と考えられます。

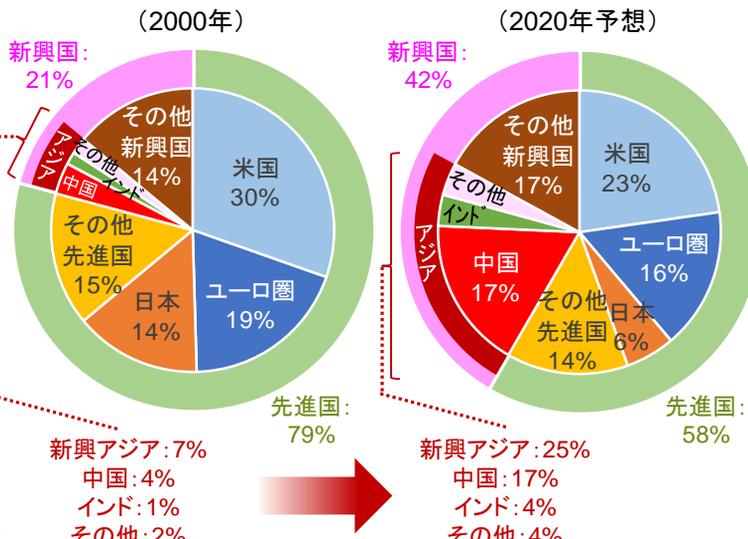
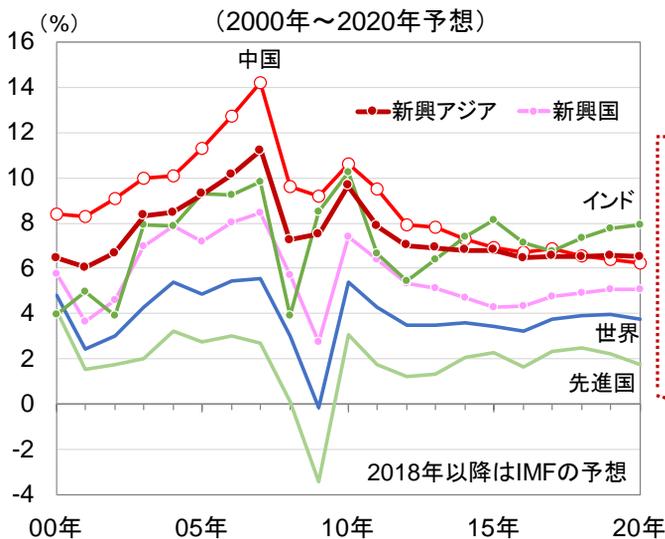
新興アジア地域を代表する中国の経済成長率は、持続可能な成長を目指す政府の方針の下、投資・製造業(輸出)主導から消費・サービス業主導への構造改革が続けられていることなどに伴ない、今後、徐々に減速する見通しです。ただし、それでも2020年の予想で6%超と、世界的にはかなりの高成長を維持するとみられています。また、インドでは、近年、積極化された構造改革が今後も続けられる見通しで、生産性の向上や民間投資の活発化などにより、経済成長率は2020年にかけては7%台、その後、2023年にかけては8%台に加速すると見込まれています。その他に、中間所得層の拡大などを背景に、フィリピンやベトナムで6%超、インドネシアで5%超と、東南アジアの主要国で2020年にかけて高成長が見込まれています。

世界の経済規模を2000年と2020年予想で比べると、34兆米ドルから98兆米ドルへ、約2.9倍に拡大すると見込まれています。地域・国別では、先進国が2倍強の拡大にとどまるのに対し、新興国全体では6倍弱、中でも中国は約14倍の拡大となります。その結果、世界の経済規模の構成比は、先進国が8割弱から6割弱に低下する一方、新興国は2割強から4割強へと倍増、中でも新興アジア地域の場合、7%から25%へ拡大し、新興国全体の6割弱の規模を占める見通しです。また、個別国では中国の構成比が2019年には17%に達し、同年に16%に低下するユーロ圏の構成比を上回ると見込まれています。

中国の経済成長率が、2000年代に記録した二桁を大きく下回っていることなどから、同国だけでなく、新興アジア地域にも成長鈍化のイメージを抱く人が少なくないようです。しかし、依然として高成長が見込まれ、且つ、世界での存在感を増している新興アジア地域は、中長期の投資対象として欠かせない存在と考えられます。

## 主要国・地域の経済成長率の推移

## 世界の経済規模の構成比



IMF「World Economic Outlook, April 2018」のデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。